1か月感覚が空い他間に、体育祭が終わってしまった。綴りたいことは、毎日のようにあっても、時間がなかったというのは、言い訳。人のせいにしてはいけない。何かのせいにしてはいけない▼体育祭の前日、そして今日、多くの担任の先生方が学級通信を出された。そこに綴られた先生方の言葉は、絶対にAIでは書けない。その絶対的な違いは、「伝わる人に伝わればよい」ということ。もっと言えば、言葉を伝えたい相手がはっきりしていること▼体育祭に向き合った子どもたちのプロセス。そして当日の姿。先生方は自分の言葉でそれを価値付けてくださっている。リスペクトしかない▼閉会式では、わたしにも自分の言葉で子どもたちを価値付けすることができる機会をもらった。式次第では「学校長講評」という。以下、一部を紹介▼「体育祭は、あなたが一人何役もこなしてくれたからこそ成功した。すべてが表舞台ではない。裏方としてたくさんの仕事があった。誰にも気づかれないような仕事をしてくれた人もいる。あなたと先生方、体育祭に関わったすべての人に感謝」▼3年生はあらゆる場面で、リーダーとして姿を見せつけてくれた。2年生はその姿を追い、やるべきことをし、次のリーダーとして片鱗を見せた▼もう一つ、今日の先生方のたよりに共通していたフレーズがある。「まだ、終わっていない」　学級集団は、まだまだ伸びる。

081016-41　第62回体育祭